2023. 3. 31

食環協ニュース141

地域のために、地域とともに行う美化活動を表彰

「第23回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました

1月27日（金）、「浅草ビューホテル」（東京都台東区）3階「祥雲の間」において「第23回環境美化教育優良校等表彰式」が開催されました。新型コロナウイルスによる影響で、昨年、一昨年は会場での開催を見合わせましたが、今年は3年ぶりに、表彰校の児童や生徒および教職員、保護者の皆さんを始め、行政や飲料団体関係者に遠方よりお集まりいただきました。報道機関も駆けつける中、会場は心地よい緊張感に包まれながら、功績を称える盛大な拍手に包まれました。

この表彰は、独創的な環境美化教育に継続的かつ熱心に取り組み、地域社会と連携しながら「公共の場所の美化」または「飲料あき容器等のリサイクル」を実践することにより、地域の環境美化に大きく寄与している小・中学校等を選出し表彰するものです。

本年度は、29都道府県から推薦を受けた小・中学校29校の中から、審査委員会による厳正な審査を経て、最優秀賞となる「文部科学大臣賞」「農林水産大臣賞」「環境大臣賞」「協会会長賞」の4校が選定され、表彰の運びとなりました。なお、優秀校6校、優良校19校の表彰校については、P9以降に掲載されています。

【目　次】

○表彰式・懇談会レポート ……P2
○出席者のスピーチ（要旨） …… P3～4
○最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー …… P5～8
○第23回 環境美化教育優良校等表彰 表彰校一覧……P9
○優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催 ……P10～11

表彰式・懇談会レポート

表彰式では冒頭、当協会の那須俊一会長があいさつし、飲料容器の回収・リサイクル率が日本はトップクラスであることを数字で示しながら、地域ぐるみの美化活動や受賞校の長きにわたる教育の成果であることを強調しました。その後、賞状授与に先立ち、表彰校4校の活動内容を映像で紹介。各校の地域特性を生かした取り組み、児童生徒や住民のインタビュー映像が披露されると、参加者は、彼らのひたむきな姿に感動しながら静かに見入り、メモを取る様子も見受けられました。

賞状・副賞授与に続き、審査委員長の小澤紀美子・東京学芸大学名誉教授が登壇。審査の評価基準を説明した後、「総合的な学習の時間」を創設した効果が着実に表れていること、地域が「屋根のない学校」として機能することが、児童生徒の自己肯定感の向上につながることに触れ、「この表彰式が共創社会を築くきっかけになってほしい」と願いを込めました。

また、来賓として出席された文部科学省の藤野敦様、農林水産省の五十嵐勝彦様、環境省の水谷努様から、「美化活動の取り組みの輪がさらに全国に普及し、将来、皆さんが社会を変える活動の中心になってくれることを期待しています」と祝辞を賜りました。

表彰式典後は、都心の夜景が一望できる最上階「ベルヴェデール」に移動し、食事や飲み物を囲みながら和やかに懇談会が行われました。乾杯のあいさつでは、那須俊一会長が、「いろんな人を巻き込みながら活動している皆さんの姿は、まさにリーダーそのものです。深く感動しました」と受賞校をあらためて賞賛し、将来を担う子どもたちにエールを送りました。懇談会の途中、児童や生徒が登壇し、各校の環境美化活動を紹介。ちょっとした寸劇も披露しながらの工夫を凝らしたスピーチに、会場は大いに盛り上がりました

■ 出席者のスピーチ（要旨）

地域とのつながりを実感しながら自己肯定感を高め自己を確立する

審査委員長 東京学芸大学名誉教授　小澤 紀美子様

審査のプロセスでは、4つの評価基準を重視しました。1つ目の基準が、独創的、継続的に取り組んでいることです。2つ目は、活動の内容が客観的事実に基づき、実戦的な学びと結びついていることです。3つ目は、地域社会と連携していること、最後は、活動の広がりです。2020年から教育課程が大きく変わりました。子どもにとって学ぶということは、環境や人とのつながり、命とのつながり、そしてハード面のつながりを含め、すべてが成長の糧になります。混沌とした21世紀ですが、持続可能な社会の作り手になる人材を育成するためには、これらの視点は、教育課程においてもとても大事です。また、活動を通して、児童生徒は地域とのつながりを実感しながら自己肯定感を高め、自己を確立していきます。地域が「屋根のない学校」として機能していることが重要で、子どもたちが明るく元気に学ぶことは、私たちの未来への光であり、希望であることを再認識することができました。

地域の特色を生かした取り組みを継続し将来は社会を変える活動の中心に

文部科学省 初等中等教育局 視学官　藤野　敦様

環境問題は持続可能な社会を構築していく上で重要な課題です。新学習指導要領では、各教科等での環境教育に関する指導内容を充実しており、文部科学省としては、子どもたちが体験活動を通して環境に対する理解と関心を深め、具体的な行動に結びつけられるように、学校を始め家庭、地域などにおける環境教育の推進を図っていきたいと考えています。今回表彰された皆さんの特色を生かした取り組みが継続、普及され、今後の環境教育の一層の充実発展に寄与することを心から期待しています。将来、こうした活動の核となり、ぜひ社会を変える活動の中心になっていただければ嬉しく思います。

身近な地域の清掃活動が環境問題への理解を深め関心を持つきっかけに

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部
外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐　五十嵐 勝彦様

農林水産大臣賞を受賞された「青森県蓬田村立蓬田中学校」は、ホタテの養殖、トマトやお米づくりなどを基幹産業とする自然豊かな蓬田村にあり、皆さんは、自然と農林水産業とのつながりを身近に感じられる環境で学ばれているかと思います。そうした中で実施されている清掃活動は、地域の環境美化、海洋プラスチックごみ問題の観点からも、有意義な取り組みです。海洋プラスチックごみは、海外で流出したものを含め、日本の海岸に漂着していますが、回収せずに放っておくと、海にまた流出し、環境や生態系、そして、皆さんの村の中心産業の漁業活動にも損害を与えます。清掃活動はそれらの問題に関心を持ち、行動するきっかけとなる取り組みです。引き続き、環境問題への理解を深め、さらに成長されることを願っています。

ものを繰り返し使う社会経済のしくみ「サーキュラーエコノミー」が重要

環境省 環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室 室長　水谷　努様

「SDGs」「3R」という言葉は知られていますが、本日は、新たに「サーキュラーエコノミー」という言葉を覚えてもらいたいと思います。これは、使えるものは繰り返し大切に使おうという考えで、例えば、ペットボトルをリサイクルしてまたペットボトルとして使用するといった、ものを大事に繰り返し使う社会経済の仕組みのことです。3年前からレジ袋有料化、昨年4月からは新しいプラスチックの法律が施行、実施されています。その中では、出来る限り、使い捨てのものは止めて、繰り返し使える紙などの資源に置き換えていくことが決められました。紙だからどんどん使って捨てていいわけじゃなく、安行小学校の牛乳パック回収のように、リサイクルすることが重要です。皆さんも地域の方たちや家族、友人といっしょにこうした日々の取り組みを進めて欲しいと願っております。

■ 最優秀校の活動紹介および出席者インタビュー

住民と取り組む地域の清掃活動が世界の人々の笑顔につながる

文部科学大臣賞　秋田県 大仙市立大曲南中学校（おおまがりみなみ）

市内を流れる雄物川と横手川の合流地点に位置する同校。田畑が広がる環境の中、20年以上にわたり地域に根差した活動を行っている。そのひとつがアルミ缶・古紙回収だ。事前に生徒が手作りしたチラシを各戸に配布し、当日は高齢者宅に出向き積極的に回収を手伝う。また、校区の2つの小学校と道路周辺の清掃に励んだり、地域憩いの場である公園で、住民と協力して清掃を行ったりしながら交流を深めている。こうした美化活動がベースとなり、ユネスコスクールに認定された2010年以降は、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を重視。「食育」「エネルギー教育」「国際教育」をテーマに、活動を深化させている。食育では、給食残さで作った肥料を使って野菜栽培する過程で、地域の主産業が農業であることを再認識。さらに、環境問題を扱った講演会を開催。世界を舞台に活躍する講師の報告を受けて、その生の声を生かそうと、生徒は他国で起きている問題を自分事として捉え、より地域環境に関心が向くようになった。〝Think Globally, Act Locally″の精神が胸に刻まれている。

秋田県大仙市立大曲南中学校の皆さん

「学校のさまざまな行事でも、環境面を意識して取り組んできましたが、まさか受賞するとは思ってもみなかったので大変驚いています。これからも、お世話になっている住民の方々への感謝の気持ちを忘れることなく、地域貢献できるようにがんばっていきたいです」

秋田県教育庁南教育事務所 仙北出張所 指導主事　物部 長秀様(写真右)

「秋田県ではSDGsを推進しており、『あきたSDGsアワード2022』においても、大曲南中学校が学校関連で唯一受賞しました。県のリーダー校になってもらい、こうした取り組みを発信しながら、今後、全体的なすそ野を広げていけるよう我々も取り組んでいきたいと考えています」

秋田地方連絡会議 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
執行役員 グループ管理本部 副本部長　阿部 嘉（よしみ）氏

「全国で4校しか選ばれない最優秀校のうち、北東北が2校受賞し、秋田県は2連覇ということで、大変嬉しく思っています。大曲南中学校は、SDGsだったり、地域との連携だったり、地方からなんでもできることを証明してくれる素晴らしい取り組みですので、地連としても県と協力しながらサポートしていきたいと思います」

漁業・農業体験を通じ海の環境づくりに励む村で唯一の中学校

農林水産大臣賞　青森県 蓬田村立蓬田中学校

海と山に囲まれた自然豊かなロケーションに佇む同校では、その環境や地場産業を生かした活動を行っている。毎年、海開きの前に取り組むのが地域の名所、「玉松海水浴場」と「玉松台」の清掃活動。全校生徒と老人クラブ、蓬田村漁協、婦人会、蓬田小学校など総勢約150人が参加する村の一大行事だ。海岸清掃では、漂着ごみの量が多く、住民からは中学生を頼りにする声が上がる。玉松台は、歴史的な価値が高く、村民の拠り所として地域に大切に守られてきた場所でもある。生徒は玉松台の歴史を住民から学んだ後に清掃することで、村民の一員としての自覚を持つようになった。住民との連携が深まる中、地域の基幹産業である漁業の体験学習も実施。漁協の協力の下、養殖ホタテの水揚げや調理などに挑戦する過程で、ホタテの養殖には海の環境づくりが大事であると再認識した。また、蓬田村では農業も盛んで、トマト栽培農家の協力により、農作業体験も行う。よい土と水が欠かせないことを学んだ生徒は、地域の美化活動が村の支えや活性化につながることを体感。村で唯一の中学校として地域の財産を守り抜くという強い決意で挑んでいる。

青森県蓬田村立蓬田中学校の皆さん

「この受賞を励みに、村の方々とみんなで自然を守ることに対して関心を持って、ずっときれいな蓬田村を保っていけるよう頑張っていきたいです。また、こうした美化活動を通して、いろんな方々と蓬田中の生徒がさらにいい関係を築けたらいいなと思います」

青森県教育庁 学校教育課 指導主事　中山 康人様（写真右）

「地域活動を通して住民との交流が生まれたことが、地域をより深く知るきっかけになり、自分たちの住む村を大切にしたいという気持ちが芽生えた素晴らしい取り組みです。こうした活動が、村、町、県に広がっていけば、新しい環境活動の形ができてくると思います」

青森地方連絡会議 みちのくコカ・コーラボトリング株式会社
執行役員 グループ管理本部 副本部長　阿部 嘉氏

「美化活動に加えて、養殖ホタテやトマト栽培など地域の実情に応じた新たな活動を展開している蓬田中学校が受賞したことは、たいへん誇らしく思います。『夢を託したい』という住民のコメントが胸に響きました。地連としても、小さな村や町をしっかりサポート・広報したいと思います」

牛乳パックのリサイクルから命のつながりへと広がる循環の輪

環境大臣賞　埼玉県　川口市立安行（あんぎょう）小学校

地域と独自のリサイクルに取り組む同校。中でも活発なのが、給食の牛乳パックを環境委員会が回収して、古紙回収業者に引き渡し、トイレットペーパーに交換する活動だ。川口市の団体が取り組む資源リサイクルと障がい者の仕事づくりをつなぐ「グリーンサポート運動」に参加後は、近隣の社会福祉法人「ごきげんらいぶ」に入所するメンバーが、児童から直接牛乳パックや古紙を受け取り、トイレットペーパーを手渡す活動に発展。量が増えるとかさばる牛乳パックを、障がい者の人たちが持ち運びしやすいよう、児童が牛乳パック専用の回収箱を手づくりするなど工夫を凝らす。リサイクルが福祉教育へと広がる中、もっと楽しく取り組めるよう校内環境通貨のしくみを設けた。牛乳パックを回収箱に入れると通貨がもらえ、安行小まつりの「エコマーケット」などで使用できる。こうしたリサイクル活動は、自然の中の大きな循環の一つに位置付けられ、古紙以外にも、給食残さで土づくりをしたり、絶滅危惧種のアカガエルの保護やヤギを飼育したりしながら、命のつながりを実体験している。

埼玉県川口市立安行小学校の皆さん

「受賞を聞いて本当にうれしいです。安行小は自然がとても豊かなところです。この環境を守るために、そしてみんなが気持ちよく過ごせるように、これからも私たちはエコ活動に取り組んでいきたいです。そして、後輩たちにもずっと続けていってほしいと思います」

埼玉県 環境部 資源循環推進課 主事　階 悠一朗様（写真右）

「これからの未来を担う小学生たちには、ぜひ今後ともこのような独創的な素晴らしい取り組みを続けて頂ければと思います。我々としても、安行小学校の皆様のような県内の素晴らしい活動を広報し、支援にも力を入れていきたいと考えております」

埼玉地方連絡会議 サントリー株式会社 埼玉支社
企画担当部長　山本 康弘氏

「安行小の取り組みは、いろんな工夫が積み重ねられている上、児童が積極的に関わるしくみを設け、周囲を巻き込んでいる様子が伝わり、とても感心しました。こうした事例がメディア等を通して広まり、一人でも多くの方々に興味をお持ちいただき活動のすそ野が広がればと思います」

ヨロンブルーの海と珊瑚を守るためのアイデア光る美化活動を発信

協会会長賞　鹿児島県　与論町立茶花（ちゃばな）小学校

日本屈指の透明度を誇る与論島の海だが近年、海岸の漂着ごみが深刻化している。案じた住民が清掃活動を行う中で、回収した海ごみを入れる専用の木箱「拾い箱」を海岸に設置した。その取り組みを児童に紹介したところ、その拾い箱をカラフルにペイントしようとアイデアが次々に生まれ、住民との協働制作につながった。さらに、拾い箱に海ごみを入れて協力してくれた人に感謝の気持ちを伝えるため、児童が箱のフタにサプライズを仕掛けると、その工夫に感動した観光客から手紙が届くなど、大きな反響があった。手ごたえをつかんだ児童は、与論島をもっと好きになってもらおうと、積極的に町や海岸の清掃を行うようになった。そして、これらの活動を発信するため、イラストや写真を盛り込んだパンフレットを作成し、空港などに設置。島のイベント「ヨロンマラソン」のウェルカムパーティーでも、日頃の取り組みを発表しながらPRしている。こうした一連の活動は同校独自の「海洋教育科『ゆんぬ学』」で実施、総合的な学習の時間を中心に、教科横断的に学びを広げている。漁協の協力でサンゴの移植にも挑戦するなど、海を守る使命感が着実に育っている。

鹿児島県与論町立茶花小学校の皆さん

「これまでの取り組みを評価して頂いたことをうれしく思います。こうした活動は、保護者や地域の方々の協力なしには実現できないことなので、皆さんに感謝したい気持ちでいっぱいです。与論の美しい海がいつまでも続くように今後も美化活動を続けていきます」

鹿児島県 環境林務部 廃棄物・リサイクル対策課 主事　浦本 ゆかり様（写真右）

「茶花小学校は独自の海洋教育に取り組んでいます。与論の海を守りたいという願いのもと、子どもたち自身が考えて行動していて、それが、やがては世界の環境を守ることにつながるという実感を子どもたちが持っている素晴らしい取り組みだと思います」

鹿児島地方連絡会議 コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
CSV推進部 コミュニティリレーション課 リーダー　藤久保 敦士氏

「自分たちの宝である町や海を、たくさんの人に好きになってもらいたいとの思いから、子どもたちは身近な海洋ごみ問題のことなどを積極的に発信しています。この受賞を機に、こうした活動がいろんなところに広がっていくように、我々も自治体と協力しながらサポートしていければと思っています」

第23回 環境美化教育優良校等表彰事業 表彰校一覧

最優秀校（4校）

■文部科学大臣賞　秋田県　大仙市立大曲南中学校（おおまがりみなみ）

■農林水産大臣賞　青森県　蓬田村立蓬田中学校（よもぎた）（よもぎた）

■環境大臣賞　埼玉県　川口市立安行小学校（あんぎょう）

■協会会長賞　鹿児島県　与論町立茶花小学校（ちゃばな）

優秀校（6校）

北海道	古平町立古平中学校（ふるびら）（ふるびら）
石川県	能登町立小木小学校（おぎ）
愛媛県	松山市立日浦中学校（ひうら）
新潟県	聖籠町立亀代小学校（せいろう）（かめしろ）
徳島県	阿波市立吉野中学校（よしの）
長崎県	対馬市立豊小学校（とよ）

優良校（19校）

岩手県	雫石町立雫石中学校（しずくいし）（しずくいし）
福島県	福島市立飯坂小学校（いいざか）
群馬県	沼田市立利根小学校（とね）
富山県	立山町立釜ヶ渕小学校（かまがふち）
静岡県	浜松市立都田小学校（みやこだ）
滋賀県	大津市立逢坂小学校（おうさか）
兵庫県	西脇市立西脇中学校（にしわき）（にしわき）
香川県	三豊市立詫間中学校（みとよ）（たくま）
佐賀県	有田町立大山小学校（おおやま）
宮崎県	延岡市立三川内中学校（みかわうち）
山形県	高畠町立糠野目小学校（たかはた）（ぬかのめ）
茨城県	城里町立石塚小学校（いばらき）（しろさと）（いしつか）
東京都	あきる野市立西中学校（にし）
山梨県	笛吹市立芦川小学校（あしがわ）
愛知県	名古屋市立小坂小学校（こさか）
大阪府	寝屋川市第七中学校区（ねやがわ）（だいしち）
和歌山県	田辺市立大塔中学校（おおとう）
高知県	須崎市立吾桑小学校（すさき）（あそう）
大分県	竹田市立竹田中学校（たけた）（たけた）

■ 優秀校・優良校の表彰状等授与式の開催

第23回環境美化教育優良校等表彰事業において、全国の小・中学校の中から優秀校、優良校に選ばれた学校において授与式が行われました。その様子を一部ご紹介します。

【優秀校】受賞校6校のうち2校を抜粋紹介

北海道 古平町立古平中学校

海の町、古平の環境を守るために、1995年に「海浜清掃」を開始した。長年の取り組みが評価され2019年、「海洋教育パイオニアスクール」に認定。「地域海洋科」を新設し、教科横断的な海洋教育に注力する。「海を守る学習」として取り組む海浜清掃では、釣り人などに気持ちよく利用してもらうため積極的に海ごみを回収。幼・小と連携して実施、学年を超えた貴重な交流の場にもなっている。また、東しゃこたん漁協青年部の出前授業や、漂着物調査などを通して、多角的な視点で海洋の現状を学びながらふるさとの良さを再認識している。

「このような名誉ある賞を受賞することができ、たいへん嬉しいです。今後も海洋教育活動を継続していきたいと考えています。そして、周りにも伝播させていきながら次世代に継承していくことを願っています」

[授与式の出席者]
- 北海道 古平町立古平中学校の皆さん
- 古平町教育委員会 管理係 係長　小原 和之様
- 北海道地連　鈴木 大介氏（北海道コカ・コーラボトリング株式会社）
- 北海道教育庁 後志教育局教育支援課 主査　早坂 妃都美様
- 古平町役場 企画課 広報統計係　羽生 圭佑様

愛媛県　松山市立日浦中学校

ゲンジボタルが生息する豊かな自然環境の中で、日浦小学校と合同で「緑の少年団」を結成、地域の清掃活動に取り組んでいる。ポイ捨てごみの増加を機に、1981年から始めたのが「530（ゴミゼロ）運動」。国道317号線沿いに散乱するペットボトルなどの回収に縦割り班で励んでいる。また、住民の指導のもと、ゲンジボタルの保護活動に注力。さらに、日浦地区の花で、絶滅危惧種「ヒメユリ」の保全活動にも参加、保護団体から種を譲り受け、個体を増やすために種の発芽実験を行うなど、生徒自身が危機感を持って保全に尽くしている。

「生徒達が長年にわたり行ってきた地道な取り組みが、このように評価されたことに対し、学校関係者一同非常にうれしく思っています。お世話になっている地域の方々とともに喜びを分かち合いたいと思います」

[授与式の出席者]
- 愛媛県 松山市立日浦中学校の皆さん
- 松山市 環境部 環境モデル都市推進課 主査　中村 優理子様
- 愛媛県 健康福祉環境部 環境保全課 課長　小方 悟様
- 愛媛地連　高梨 明治氏（サントリー株式会社）

【優良校】受賞校19校のうち4校を抜粋紹介

群馬県 沼田市立利根（とね）小学校

東洋のナイアガラと称される「吹割の滝」を校区に持つ、豊かな自然に恵まれた同校。2016年に3校が統合して開校した当初から、清掃活動や資源回収に取り組む。通学路清掃では、環境委員を中心に上級生が下級生に指導しながら、児童が主体的に行う。資源回収は、資源ごみを収集所まで運ぶことが困難な高齢者を手伝うなど、地域貢献にも一役買っている。

「この度の受賞は、子どもたちの自信を深めることにつながりますので、嬉しい気持ちでいっぱいです。たいへんありがとうございました。これからも、引き続き地域の方々とともに取り組んでいってほしいと願っています」

［授与式の出席者］
- 群馬県 沼田市立利根小学校の皆さん
- 群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係 係長　小野里 明様
- 群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係 主事　高田 実希様
- 群馬地連　橋本 秀也氏（アサヒ飲料株式会社）

愛知県 名古屋市立小坂（こさか）小学校

2003年に「住みよい町プロジェクト」を立ち上げて以来、児童や保護者、住民と協力して地域清掃に取り組んでいる。500人以上が参加する一大行事で、清掃活動のほか、学校周りの街路樹の下の除草や花の植栽を実施。住民の学校への協力体制も整っており、道沿いのポイ捨てごみの抑止力に一役買っている。美化活動を糸口にした学年別の環境教育も活発だ。

「『住みよい町プロジェクト』で植えるポーチュラカの花言葉は、『いつも元気』です。この花言葉のように、いつも元気があふれ、きれいで住みやすい町を、子どもたちと保護者の方と、そして地域の方とともに守っていきたいです」

［授与式の出席者］
- 愛知県 名古屋市立小坂小学校の皆さん
- 愛知地連 尾関 和成氏（サントリー株式会社）
- 愛知地連 奥堀　一世氏（コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社）

兵庫県 西脇（にしわき）市立西脇（にしわき）中学校

2018年に「ベンチャー部」を立ち上げ、週1回のペースで地域の美化活動などに取り組んでいる。主に、通学路や地域のゴミステーションなどで、ポイ捨てされたペットボトルや空き缶、たばこの吸い殻など、散歩中の住民が拾いにくいものを積極的に回収。今年度からは、活動中にのぼり旗を設置、周囲にアピールすることで、住民との交流も生まれている。

「3年前にも同様の賞をいただきましたが、今回も選ばれて、大変光栄です。ベンチャー部を立ち上げて地域の美化に取り組む活動は、今後も継続して取り組んでまいりたいと思います」

［授与式の出席者］
- 兵庫県　西脇市立西脇中学校の皆さん
- 兵庫地連　山名　裕之氏（ダイドードリンコ株式会社）

佐賀県 有田町立大山（おおやま）小学校

学校の目の前にある「大木駅」の清掃活動に月1回、住民と協力しながら取り組んでいる。地域にとっては欠かせない駅やその周辺をきれいに明るくしようと、ボランティア委員会が始めた。地域見守り隊による草刈りの後は、隅々まで掃除し、季節の花々も植栽。住民からの温かい言葉かけや、花で彩られた空間を目にした児童には、達成感が生まれている。

「環境美化は心をきれいにし、防犯にもつながる取り組みです。この名誉ある受賞をきっかけに、これからも地域の人と連携しながら、駅やその周辺が明るく美しくなるように取り組んでいきたいと思います」

［授与式の出席者］
- 佐賀県 有田町立大山小学校の皆さん
- 佐賀県 県民環境部 環境課　松井 伸夫様
- 有田町役場 総務部　樋渡 修輔様
- 佐賀地連　豊福 知徳氏（アサヒビール株式会社）

学校における環境学習の教材の一部として活用が出来ます。

「まちの美化」と「リサイクル」をテーマにした小学生用のサイトがあります!

まち美化キッズ

【サイトのご紹介】

「まち美化キッズ」は、食品容器環境美化協会が小学校高学年を対象に制作した学習Webサイトです。児童たちの身の回りにある飲料容器「びん、かん、ペットボトル」を通して、環境美化・リサイクルの大切さや仕組みを「まち美化ってなあに?」「ポイすてストップってなあに?」「調べ学習コーナー」等、楽しく学べる構成となっています。

のんだあとは リサイクル

まち美化ってなあに?

イラストや画像いりで
楽しくわかりやすい!

ポイすてストップってなあに?

「リサイクルしたら何に変身するの?」

アルミかん
スチールかん
ガラスびん
ペットボトル
紙パック

映像資料も
あります!!

ホームページは
こちらから

まち美化キッズ　検索

https://www.kankyobika.or.jp/kids

[編集・発行]
公益社団法人 食品容器環境美化協会（食環協）
〒108-0023 東京都港区芝浦2-15-16 田町K・Sビル6階
TEL. 03-5439-5121　FAX. 03-5476-2883　URL https://www.kankyobika.or.jp/

VEGETABLE OIL INK 植物油インクで印刷されています。
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC™ C013021